

特別支援学級 自立活動学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級2組）

6人（2年3人，3年3人）

指導者 西口 鷹仁

1 活動名 楽しく言葉のキャッチボール

2 子供の実態

	心理的な安定	コミュニケーション
A児 (2年)	うまくいかなかったり、できないと思ったことがあったりすると、自分を責めるような発言をすることがある。	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、自分の気持ちを適切に伝えることが難しいため、話が一方的になることがある。 興味がないことについて、相手の話を聞き流すことがある。
B児 (2年)	その日の気分によって、意欲的に学習に取り組むことができる日と、取り掛かりに時間が掛かる日がある。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の反応に関係なく一方的に話し続けることがある。 気になることがあると注意がそれて、相手の話を聞けないことがある。
C児 (2年)	相手の話を最後まで聞かず、話の途中で相手が伝えたいことを理解したつもりになり、思い込みで行動することがある。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味があることについては、相手の関心の有無に関わらず、話し続けることがある。 興味がないことについて、相手の話を聞き流すことがある。
D児 (3年)	自分の思い通りにならないことがあると癇癢を起こしたり、固まったりすることがある。	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級では、自分から話し掛けられないことがある。 先生や友達の話聞き、理解することができる。
E児 (3年)	その日の気分によって、取り組むべき課題があっても、取り掛かるまでに時間が掛かることがある。	<ul style="list-style-type: none"> 場の状況を読み取ることが苦手で、一方的に話すことがある。 興味がないことについて、相手の話を聞き流すことがある。
F児 (3年)	取り組むべき課題があっても、取り掛かりに時間が掛かったり、集中力を持続できず、途中で止まってしまったりすることがある。	<ul style="list-style-type: none"> 相手の状況や反応に関係なく、一方的に話し続けることがある。 気になることがあると注意がそれて、相手の話を聞けないことがある。

3 活動の目標

A児	<ul style="list-style-type: none"> 安定した気持ちで、最後まで活動に取り組むことができる。 【2 心理的な安定(1)】 相手の話をよく聞き、適切に返答することができる。 【6 コミュニケーション(2)】
B児	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を理解し、集中して活動に取り組むことができる。 【2 心理的な安定(2)】 相手の反応を見ながら話したり、相手の話を聞いたりすることができる。 【6 コミュニケーション(2)】
C児	<ul style="list-style-type: none"> 安定した気持ちで、積極的に活動に取り組むことができる。 【2 心理的な安定(2)】 相手の話を聞き、うけ止め言葉を使うことができる。 【6 コミュニケーション(2)】
D児	<ul style="list-style-type: none"> 安定した気持ちで、最後まで活動を楽しむことができる。 【2 心理的な安定(1)】 自分から進んで、うけ止め言葉やかえし言葉を使うことができる。 【6 コミュニケーション(2)】
E児	<ul style="list-style-type: none"> 活動の流れを理解し、見通しをもって活動に取り組むことができる。 【2 心理的な安定(2)】 相手の話を最後まで聞いて、話し始めることができる。 【6 コミュニケーション(2)】
F児	<ul style="list-style-type: none"> 集中して、最後まで活動に取り組むことができる。 【2 心理的な安定(1)】 自分と相手が交互に話ができるように、うけ止め言葉やかえし言葉を使うことができる。 【6 コミュニケーション(2)】

うけ止め言葉：「なるほど。」「すごい。」など、相手の言葉を受け止めたり、相手を認めたりする言葉

かえし言葉：「どうして?」「他には?」など、相手の言葉を受けて、話題を深めたり広げたりする言葉

4 活動で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

問題発見力	日常場面の動画を視聴することで、これまでの言葉のやり取りの様子について振り返り、「自分の問い」を見いだす力
見通す力	「自分の問い」の解決に向けて、話合いや活動を振り返る経験を生かしながら、学習の流れを教師と一緒に計画し、言葉のやり取りについての解決方法を考える力
協働力	せりふを読み返したり、活動しているときの動画を視聴したりする中で、互いのよい点について友達と話し合ったり、教え合ったりして、「自分の問い」を解決する力
振り返る力	活動の様子を動画で視聴して自分を客観的に見たり、「言葉のキャッチボールメーター」に数値を記入したりするなどして、できるようになったことを捉える力。

5 活動設定の理由

本学級の子供は、これまでに「聞き方名人になろう」、「話し方名人になろう～話しかけ方へん～」の学習で、先生や友達の話を書くときの姿勢や態度、話し掛けるときの大切なポイント（「顔を見て」、「立ち止まって」、「話してもよいか聞いて」）などについて学習してきており、自分の興味があることについては、友達に自分から話し掛ける姿が見られるようになってきている。しかし、自分のことを伝えたいという思いが強く、相手の話を遮って一方的に話してしまったり、話し終えると満足して、相手の話を聞かずに返答しなかったりすることがある。また、言葉のやり取りの中で見通しがもてていなかったり、自信がなかったりするため、癩癩を起こしたり、場を離れたりして活動に参加できないことがある。

そこで本活動では、「楽しく言葉のキャッチボールをする。」という目標を設定し、グッドモデルやバッドモデルを視聴し、違いに着目することで、言葉のキャッチボールをするときの大切なポイント（「うけ止め言葉を使う」、「かえし言葉を使う」、「最後まで聞く」など）を教師と一緒に考えるようにする。それらの大切なポイントに気を付けてやり取りをすることで、言葉のキャッチボールをする楽しさに気付くことができるようにする。また、本活動の中で行う劇でやり取りをする相手を代えたり、即興で言葉のキャッチボールをしたりすることで、「大切なポイントに気を付けて、相手の言葉を受け止めて話すことができた。」、「言葉のキャッチボールは楽しいな。」などの成功体験を実感し、望ましいコミュニケーションを図ることができるようにする。さらに、様々な場面を設定し繰り返し練習することで、自信をもち、安心して活動に取り組めるようにする。

このような学習を通して、言葉のやり取りを楽しむことで、先生や友達と積極的に言葉のキャッチボールをしたいという思いが高まっていくと考える。また、できたことの喜びや達成感を味わうことで、自己肯定感が高まり、主体的に課題に取り組もうとする意欲にもつながると考える。

6 指導に当たって

(1) 「必要性」を実感する教師の手立て

「自分の問い」づくりタイムでは、まず、グッドモデルの動画を視聴し、「こんな風に言葉のキャッチボールができるようになりたい」という思いをもつことができるようにする。また、バッドモデルの動画を視聴することで、一方的に話したり、相手の話を最後まで聞かなかったりすると、相手が困ることに気付くことができるようにする。次に、日常の様子を動画で視聴し、グッドモデルやバッドモデルと比較することで、大切なポイントを考えることができるようにする。さらに、前時までの活動の様子を画像や動画、言葉のキャッチボールメーターなどで振り返ることで、「自分の問い」をもち、課題を解決したいという意欲を高めるようにする。

(2) 「自律性」を実感する教師の手立て

「自分の問い」追究タイムでは、「言葉のキャッチボールができるようになるためには、どうすればよいのか。」と問いかけたり、これまでの活動の様子を振り返ったりすることで、学習の流れを確認し、課題解決に向けての見通しをもてるようにする。また、「上手に言葉のキャッチボールするにはどうすればよいのか。」と問いかけたり、これまでの解決方法を提示したりすることで、解決方法を考えたり選択したりできるようにする。さらに、活動場面に応じて、ホワイトボードやタブレット PC などの思考共有ツールを選択できるようにすることで、意見交換が活発化し、深化させたり、統合させたりすることができるようにする。

(3) 「関係性」を実感する教師の手立て

「自分の問い」交流タイムでは、ホワイトボードに考えたせりふを書き出して確認したり、活動している動画を視聴したりする際に、大切なポイントに着目して互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(4) 「有用性」を実感する教師の手立て

自分の活動に着目し、ホワイトボードに書いたせりふや活動している様子の動画を振り返ることで、大切なポイントに気を付けて活動できているかを確認することができるようにする。また、「自分の問い」振り返りタイムでは、学習の振り返りを「できたかなカード」に自分の言葉でまとめることで、できたことの喜びや達成感を味わったり、今後も大切なポイントに気を付けて、様々な場面で言葉のキャッチボールをしたいという意欲を高めたりすることができるようにする。

	1	2	3	4	5 (本時)	6	7	
つかむ・見通す	1 活動内容について知る。 2 学習課題を決める。 【活動全体の学習課題】 友だちと楽しく言葉のキャッチボールをしよう。 【本時の学習課題】 楽しく言葉のキャッチボールをするための大切なポイントは何だろう。	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習活動を確認する。 うけ止め言葉を 使ってみよう。	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習活動を確認する。 かえし言葉を使っ てみよう。	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習活動を確認する。 場面に合ったせりふを考えて、言葉のキャッチボール劇をしよう。	【劇の場面】 好きな食べ物 について会話す る場面	好きなキャラ クターについて 会話する場面	休みの日に何 をしているかに ついて会話する 場面	1 前時の学習を振り返り、言葉のキャッチボールをするときの大切なポイントについて確認する。 2 本時の学習活動を確認する。 学んだことを生かして、「間違い探しゲーム」をしよう。
活動する	3 言葉のキャッチボールとは何かを知る。 4 言葉のキャッチボールをするための大切なポイントを考える。 (1) グッドモデルとバッドモデルの動画を視聴し、どこが違うのかを考える。 (2) 楽しく言葉のキャッチボールをするための大切なポイントについて話し合う。 5 本活動を通して、目指す自分の姿を想像して「できたかなカード」に記録する。	5 うけ止め言葉とは、どのようなものかを知る。 6 どのようなうけ止め言葉があるのか考える。 7 うけ止め言葉を使う練習をする。	5 かえし言葉とは、どのようなものかを知る。 6 どのようなかえし言葉があるのか考える。 7 かえし言葉を使う練習をする。	5 「今日の動画」を視聴する。 6 2人(ペア①)で動画の続きのせりふを考える。 7 考えたせりふを基に、劇の練習をする。 8 言葉のキャッチボール劇をする。	5 「今日の動画」を視聴する。 6 2人(ペア②)で動画の続きのせりふを考える。 7 考えたせりふを基に、劇の練習をする。 8 言葉のキャッチボール劇をする。	5 今日のテーマを確認する。 6 テーマに沿って、2人で言葉のキャッチボールをする。 7 活動の動画を視聴して、話し合う。 8 テーマを変えて、言葉のキャッチボールをする。	5 大切なポイントに気を付けて、「間違い探しゲーム①」をする。 6 言葉のキャッチボールをするときのお互いのよかったところについて話し合う。 7 大切なポイントに気を付けて、「間違い探しゲーム②」をする。	
	◆ 自信をもち、安心して活動に取り組むことができる。 【心理的な安定：観察】 ◆ 「自分の問い」に気を付けながら、友達と言葉のキャッチボールをすることができる。 【コミュニケーション：評価カード・観察】							
返振り	6 本時の学習を振り返る。 7 次時の学習について知る。	8 本時の学習を振り返る。 9 次時の学習について知る。		9 本時の学習を振り返る。 10 次時の学習について知る。			8 本時の学習を振り返る。 9 活動全体を振り返る。	
子供の反応	・ 楽しく言葉のキャッチボールをするための大切なポイントは何かな。 ・ 今の自分をメーターに数値で表すとどれくらいかな。	・ せりふを書き出し ておけば、後で確認 できるね。		・ ○○さんは、相手の話を最後まで聞いてから、話すことができているね。		・ 大切なポイントに気を付けると、話が弾み、楽しく言葉のキャッチボールができるようになったよ。いろいろな人と楽しく言葉のキャッチボールをしてみたいな。		

	必要性	自律性	関係性	有用性
主な教師の手立て	○ グッドモデルの動画を視聴することで「こんな風に言葉のキャッチボールができるようになりたい。」という思いをもつことができるようにする。 ○ グッドモデルとバッドモデルを比較することで、大切なポイントを考えることができるようにする。 ○ 前時までの活動の様子を画像や動画、言葉のキャッチボールメーターなどで振り返ることで「自分の問い」をもち、課題を解決したいという意欲を高められるようにする。	○ 「言葉のキャッチボールができるようになるためには、どうすればよいのか。」と問いかけたり、これまでの活動の様子を振り返ったりすることで、解決方法を考えたり選択したりできるようにする。	○ 活動している動画を視聴する際に、大切なポイントに着目して互いの考えを伝え合うことで、言葉のキャッチボールができているか振り返ることができるようにする。 ○ 2人で話し合った結果を全体で共有することで、自分の考えをより広げたり深めたりすることができるようにする。	○ 活動している様子を動画で振り返ることで、言葉のキャッチボールをする楽しさに気付くことができるようにする。 ○ 本時の学習の振り返りを「できたかなカード」に自分の言葉でまとめることで、できたことの喜びや達成感を味わったり、今後も大切なポイントに気を付けて、様々な場面で言葉のキャッチボールができるようになりたいという意欲を高めたりすることができるようにする。

8 本 時(5/7)

(1) 目 標

個人 目 標	A児	友達の言葉を最後まで聞いてから、話し始めることができる。	D児	かえし言葉を使って、返答することができる。
	B児	相手の反応を見て、かえし言葉を使うことができる。	E児	友達の反応を見て、交互に話すことができる。
	C児	うけ止め言葉を使って、返答することができる。	F児	うけ止め言葉を使いながら、友達と交互に話ができるようにする。

(2) 展 開 教師の言葉掛け 予想される子供の反応 評価に関すること

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	主な教師の手立て (㊸:必要性 ㊹:自律性 ㊺:関係性 ㊻:有用性)
つかむ・見通す (10)	1 前時の学習を振り返る。 【大切なポイント】 ・ うけ止め言葉を使う ・ かえし言葉を使う ・ 最後まで聞く	㊸ 言葉のキャッチボールをするときの大切なポイントや学習の流れを確認することで、本時の学習内容の見通しをもつことができるようにする。 ㊸ 前時までの活動の様子を画像や動画、言葉のキャッチボールメーターなどで振り返ることで「自分の問い」をもち、課題を解決したいという意欲を高められるようにする。 ㊹ 「上手に言葉のキャッチボールするにはどうすればよいか。」と問いかけたり、これまでの解決方法を提示したりすることで、解決方法を考えたり選択したりできるようにする。 ㊹ 「言葉のキャッチボールメーター」の目盛りを上げるための条件(かえし言葉を○回使うことができる等)を設定することで、言葉のキャッチボールメーターの数値を上げる根拠をもち、解決方法を考えられるようにする。 (個に応じた具体的な手立て) A児 大切なポイントを振り返る場を設定することで、友達の話最後まで聞くことができるようにする。 B児 活動をする前に大切なポイントを確認することで、かえし言葉を使うことができるようにする。 C児 自分が選んだ大切なポイントを見える位置に示しておくことで、うけ止め言葉を積極的に使おうとする気持ちを高められるようにする。 D児 せりふを考えるとときに、かえし言葉の語群を提示することで、それらの言葉を使って言葉のキャッチボールができるようにする。 E児 友達の話最後まで聞いて、交互に話すことができるようにする。 F児 自分が選んだ大切なポイントを見える位置に示しておくことで、うけ止め言葉を使いながら、友達と交互に話すことができるようにする。 ㊺ 考えたせりふの中にうけ止め言葉や返し言葉が使われているか話し合うことで、自分や友達の成果や課題について考えることができるようにする。 ㊺ 言葉のキャッチボール劇を見るとき視点(大切なポイントを意識した言葉のキャッチボールができていないか)を明確に示すことで、言葉のキャッチボールが上手にできているか称賛し合うことができるようにする。 ㊻ 言葉のキャッチボール劇のよかったところを友達と称賛し合ったり、「言葉のキャッチボールメーター」で今日の自分の活動を振り返ったりすることで、大切なポイントに気を付けながら言葉のキャッチボールができた達成感や成就感を味わい、自分の成長を実感できるようにする。 ㊻ 活動を通してできるようになったことやがんばったことを「できたかなカード」に自分の言葉でまとめる場を設定することで、いろいろな場面で生かしてみたいという意欲を高めることができるようにする。 ◆ 「自分の問い」に気を付けながら、友達と言葉のキャッチボールをすることができる。 【コミュニケーション:評価カード・観察】 ㊻ 「活動マップ」で次時の学習内容を確認することで、友達と積極的に言葉のキャッチボールをしたいという意欲が継続できるようにする。
	2 本時の学習活動を確認する。【「自分の問い」づくりタイム】 場面合ったせりふを考えて、言葉のキャッチボール劇をしよう。	
	3 「自分の問い」を決める。 どうすれば上手に言葉のキャッチボールができるかな。	
	4 活動の流れを確認する。	
	5 「今日の動画」を視聴する。 (好きなキャラクターについて会話する場面)	
	6 2人で動画の続きのせりふを考える。 【「自分の問い」交流タイム】 (1) 2人組で、せりふを考える。 (2) 考えたせりふを確認する。 考えたせりふを見て、うけ止め言葉やかえし言葉を使っているか確認してみましょう。	
	7 考えたせりふを基に、練習する。 【「自分の問い」追究タイム】	
	8 言葉のキャッチボール劇をする。 【「自分の問い」追究タイム】	
	9 本時の学習を振り返る。【「自分の問い」振り返りタイム】 上手に言葉のキャッチボールをすることができたのは、どのようなことに気を付けたからですか。 たくさんうけ止め言葉を使えたからです。 かえし言葉を使って交互に話せたからです。 大切なポイントに気を付けると、上手に言葉のキャッチボールができましたね。	
	10 次時の学習について知る。 次の時間は台本なしで言葉のキャッチボールをするんだね。難しそうだけど、がんばるぞ。	

必要性

自律性

関係性

有用性

活動する
(25)

振り返る
(10)

自閉症・情緒障害特別支援学級(あすなろ2組) 自立活動 授業デザインシート

1 活動名 楽しく言葉のキャッチボール

2 本活動で育成を目指す資質・能力

問題発見力	日常場面の動画を視聴することで、これまでの言葉のやり取りの様子について振り返り、「自分の問い」を見いだす力
見通す力	「自分の問い」の解決に向けて、話し合いや活動を振り返る経験を生かしながら、学習の流れを教師と一緒に計画し、言葉のやり取りについての解決方法を考える力
協働力	せりふを読み返したり、活動しているときの動画を視聴したりする中で、互いのよい点について友達と話し合ったり、教え合ったりして、「自分の問い」を解決する力
振り返る力	活動の様子を動画で視聴して自分を客観的に見たり、「言葉のキャッチボールメーター」に数値を記入したりするなどして、できるようになったことを捉える力。

3 本活動の授業デザイン

本活動で育成を目指す資質・能力と特に関わりのある学習活動において以下のような手立てを行い、その有効性を検証しながら授業をデザインすることにした。

	目指す子供の姿	特に関わりのある教師の手立て	時	子供の反応 (●課題 ☆改善点)
問題発見力	活動している画像や動画、言葉のキャッチボールメーターを基に、自分の現状を確認することで、楽しく言葉のキャッチボールをするために、大切なポイントを選択している。	〈必要性を実感する教師の手立て〉 ○ 前時までの活動の様子を画像や動画、言葉のキャッチボールメーターなどで振り返ることで「自分の問い」をもち、課題を解決したいという意欲を高められるようにする。		
見通す力	これまで活動してきたことを振り返ることで、学習の流れを教師と一緒につくり、課題解決に向けての見通しをもち、学習に取り組もうとしている。	〈自律性を実感する教師の手立て〉 ○ 「言葉のキャッチボールができるようになるためには、どうすればよいのか。」と問い掛けることで、学習の流れを確認し、見通しをもつことができるようにする。		
協働力	大切なポイントに着目しながら活動を振り返り、互いのよかったところについて、意見交換している。	〈関係性を実感する教師の手立て〉 ○ 2人で話し合った結果を全体で共有することで、自らの考えをより深めたり広げたりすることができるようにする。		
振り返る力	自分で選んだ大切なポイントに気を付けながら言葉のキャッチボールができたかを振り返り、がんばったことやできるようになったことを捉えている。	〈有用性を実感する教師の手立て〉 ○ 本時の学習を動画やメーターを基に振り返ることで、できたことの喜びや達成感を味わうことができるようにする。		